

たんの小史

ふるさと端野

⑪

先達の方々 屯田兵(その3)

北見屯田の成立

北見屯田の前身は根室屯田

北見(端野、北見、相内、上湧別)屯田の歴史を見ると、根室(和田、太田)屯田との深いかわりがあります。

明治八(一八七五)年琴似兵村創設以来、北海道の中央部に兵村を設置し開拓が進められてきましたが、太平洋沿岸防備の不備が課題となり、同一九(一八八六)年、屯田歩兵第二大隊本部を根室の和田村に設置しました。(以後二二年に和田村、二三年に大田村に入植)

しかし、和田、大田村とも、同三〇(一八九七)年三月を以って兵役が満了し、兵村が解散されることになっていました。この根室屯田に代わって設置されたのが北見屯田であり、和田村に設置されていた屯田歩兵第二大隊を、屯田歩兵第四大隊としてその本部を野付牛(現北見市)に移転することになったのです。

北見屯田の成立

屯田歩兵第四大隊本部を野付牛に移転するにあたっては、明治一九(一八八六)年当時の屯田本部長であった永山武四郎がオホーツク沿岸を巡回し、岩村北海道長官に対し「・・・北見屯田ノ配置ハ現在ニ将来ニ大得策ト謂フモ過言ニ非ルニ似タリ・・・」と提言しました。

そして同二一(一八八八)年、永山武四郎は二代目北海道長官を兼ねることになり、当時、北海道の開発のために十勝平野を横断し釧路、根室に向かう予定であった中央道路の路線を、翌二二(一八八九)年、上川から網走に変更し、同二四(一八九二)年釧路集治監に対し「・・・本年内ニ竣工」を命じ、同年雪解けを待って開削工事が開始され、囚人一〇〇〇余人によって突貫工事が行われ、「網走道路」中央道路は多数の犠牲者を出し開通されました。

同二六(一八九三)年屯田司令部参謀であった小泉正保少佐(同二八年に北見屯田の屯田歩兵第四大隊長に就任する)が、永山長官の命を受け、かつて永山が提言したオホーツク沿岸部の湧別原野の外野付牛原野(北見地方)にも調査に入り、その結果、沿岸部の湧別原野と網走道路が貫通している野付牛原野一帯の北見国に屯田歩兵第四大隊を移転すること

を決定しました。

同二八(一八九五)年夏から、北見屯田予定地の区画測量に入り、翌二九(一八九六)年から、開設準備が開始されました。

北見屯田の編成と配置

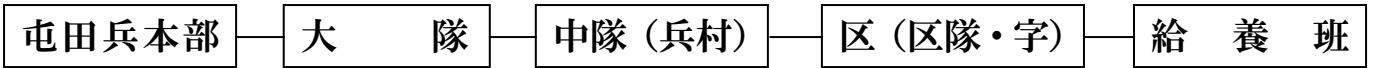
北見屯田の編成と兵村の配置は次の通りでした。

- 大隊本部 屯田歩兵第四大隊 大隊長 小泉正保中佐 野付牛(現北見市)
 - 招募戸数一〇〇〇戸 野付牛原野(六〇〇戸) 湧別原野(六〇〇戸)
 - 大隊の編成
 - 第一中隊 下野付牛兵村(野付牛村字下野付牛(現端野)二〇〇戸)
 - 第二中隊 中野付牛兵村(野付牛村字オシネメーム)(現北見市)二〇〇戸)
 - 第三中隊 上野付牛兵村(野付牛村字相内)(現北見市相内)二〇〇戸)
 - 第四中隊 南湧別兵村(湧別村湧別原野)(現湧別町上湧別)二〇〇戸)
 - 第五中隊 北湧別兵村(湧別村湧別原野)(現湧別町上湧別)二〇〇戸)
- なお、端野町の前身となった第一中隊は、中央道路沿いに常呂川の下流から上流に向かい一区、二区、三区と配置されました。

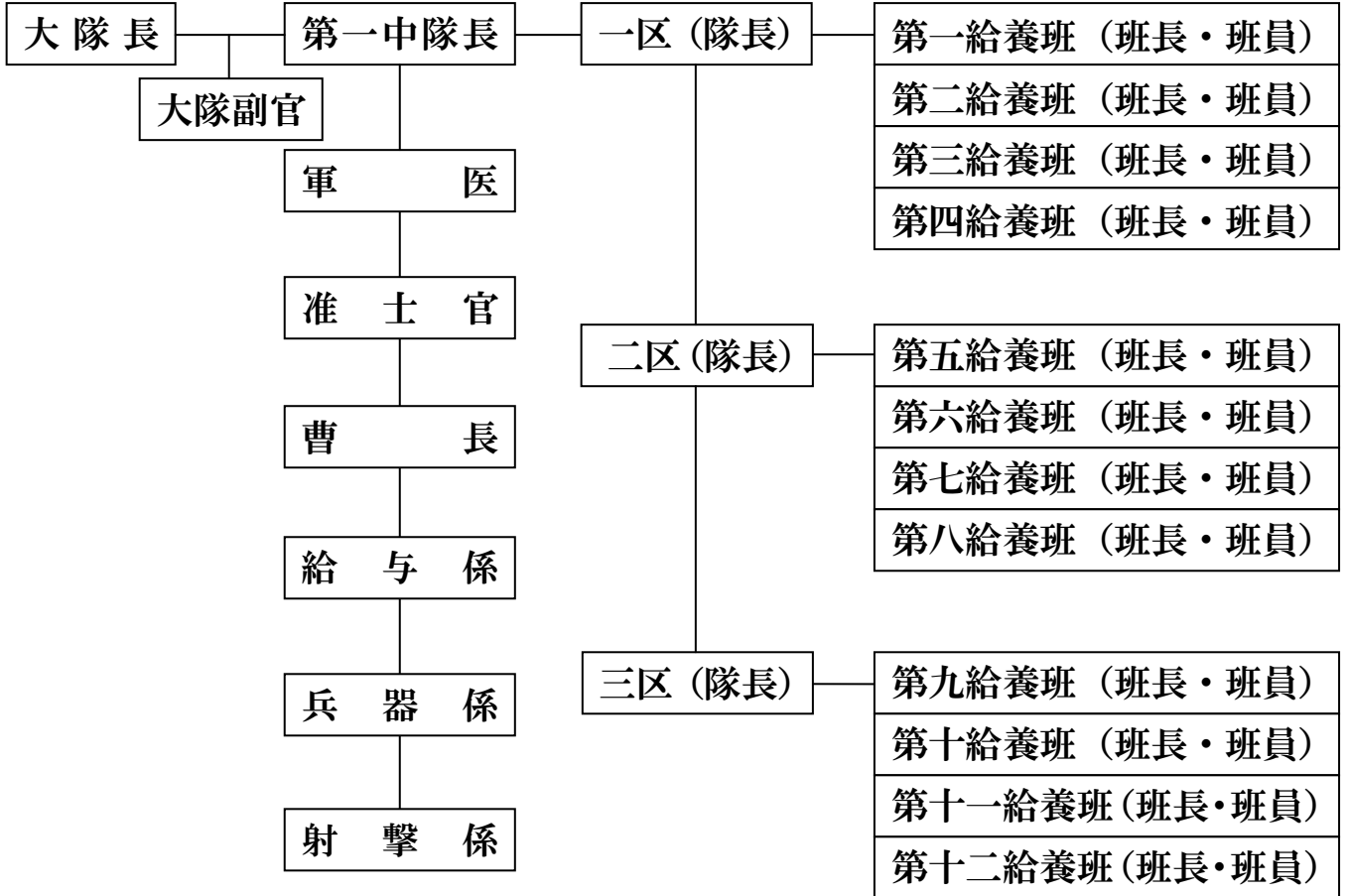
(裏面に続きます)

田中 誠

屯田兵組織



屯田歩兵第4大隊第1中隊 (端野) の編成



第一中隊配置図及支給地図

